

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101925
法人名	有限会社 高木ライフ企画
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	宮崎市鶴島3丁目50番地 (電話) 0985-35-0227

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 8月 20日

【情報提供票より】(21年6月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 13日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 造り
	2階建ての 2階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月26日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2			
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.3歳	最低 70歳		最高 92歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木内科・胃腸科 阿波岐原病院 相馬歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の中心市街地に近く歴史のある住宅地で、緑が多い静かで恵まれた環境の中にホームは立地している。建物は民間の職員寮を改修したもので、1階がデイサービスで2階がグループホームとなっており連携して運営が行われている。利用者が地域の中で安心して暮らし続けることができるよう、自治会に加入し、地域の行事や祭りへの参加、ボランティアの受け入れ等地元の人々との交流に努めている。また、職員による利用者本位の心のこもったケアが実践されており、利用者の表情は明るく元気に暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である、市町村との連携、介護計画の見直し、重度化や終末期に向けた方針の共有はいずれも改善されている。また、運営推進会議を活かした取り組み、鍵をかけないケアの実践、災害対策については前向きに改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はミーティングで評価の意義や目的を話し合い、理解した上で全員で取り組みサービスの向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、5か月から6か月に1回開催し、運営状況の報告や公民館で行われる行事への参加等、具体的な話し合いを行っている。今後、幅広い立場の人の参加を働きかけ、2か月に1回以上の開催を期待したい。
重点項目④	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、年1回家族会を開いて家族同士の話し合いの中から意見や不満を表せる機会づくりに取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入しており、地域の行事や祭り、ボランティアの受け入れ等積極的に行っている。また、散歩時に地元の人々と挨拶を交わしたり、近く的美容室を利用する等、地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、利用者が地域の中で安心して暮らし続けることが出来るよう、地域との関連性を重視した事業所独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングで理念について話し合い、職員全員が理念を共有している。また、理念に沿った心のこもったケアが実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、地域の行事や祭り、ボランティアの受け入れ等積極的に行っている。また、散歩時に地元の人々と挨拶を交わしたり、近くの美容室を利用する等、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングで評価の意義や目的を話し合い、理解した上で全員で取り組みサービスの向上に活かしている。また、外部評価は評価の結果を踏まえて職員間で検討し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、5か月～6か月に1回開催し、運営状況の報告や公民館で行われる行事への参加等、具体的な話し合いを行っている。	○	運営推進会議は、住民代表や市の担当者、家族代表等、幅広い立場の人の参加を働きかけ、2か月に1回以上の開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、運営の報告や課題等について電話で報告や相談をしている。また、市が主催する研修会等には出来るだけ参加して交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の健康状態や暮らしぶりを詳しく報告している。また、金銭管理は出納帳を作成し家族に定期的に報告し承認を得ている。ホーム便りも年2回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ声をかけ、意見や不満を表せる雰囲気づくりに努めている。また、年1回家族会を開いて家族同士の話し合いの中から意見や不満を表せる機会づくりに取り組んでいる。介護相談員も受け入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職や異動を最小限に抑える努力をしており、これまでは離職や異動が少なく馴染みの関係が保たれ、利用者は安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員を段階に応じて法人内外の研修に出来るだけ多く参加できるよう配慮している。また、研修の結果は研修報告書で報告し全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に毎回参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅を出来るだけ多く訪問し、利用者の生活環境や習慣、家族の状況等を把握するように努めている。また、利用者・家族にホームを見学してもらい徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、日々家族のように過ごしなが一緒に洗濯物たたみをしたり、生活の知恵を学ぶ等、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の会話や表情、行動の中から出来るだけ思いや意向を把握できるように努めている。また、家族や関係者から情報を収集している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、管理者と職員による全体会議で利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について検討し、本人や家族、関係者の意見やアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、介護計画の遂行状況、効果等を評価し、介護計画は3か月に1回見直しを行っている。また、状況の変化が見られる場合は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や状況に応じて、通院や外出、買物等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としているが、母体の医院でいつでも受診や気軽に相談が出来る体制が出来ている。また、月に1回の往診や緊急時の対応も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族、医師、関係者と話し合い、方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないよう細心の配慮をしている。また、職員は研修会等で個人情報保護法を学び理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向やその日の体調に配慮し、1階のデイサービスの利用やテレビを見たり、散歩、買物等、自由に自分のペースで暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けをし、同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。気のあった利用者同士で入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや後片付け、体操、散歩、たまにはドライブ等利用者が楽しく過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの神社や大淀川の堤防を散歩したり、近くのスーパーでの買物等、出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが2階にあり、階段が急なこともあって、危険防止の立場から日中は玄関に鍵をかけている。	○	建物の構造上の問題や職員数の課題等があり、かなり厳しい面があるが、見守りの徹底や利用者の外出の理由や傾向をつかんでの対応等、何とか鍵をかけないケアが出来ないか検討してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て、1階のデイサービスと一緒に災害訓練を行っている。	○	非常災害時、特に夜間の対応については、職員の対応だけでは限界があるので、日ごろから近隣住民の協力が得られるよう働きかけ、災害訓練に地元の人々の参加を呼びかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は毎日チェック表で管理し職員間で共有している。また、利用者の好みや希望を採り入れたバランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、全体的にやや狭い感じがするが、テーブルの配置の工夫や壁には利用者が作ったはり絵が飾られ、また、ベランダには季節の花や野菜が植えられており、家庭的で落ち着いて生活で来るように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、家族との思い出の写真、鏡、身の回りの小物等が持ち込まれ、利用者が安心して居心地よく生活できるように工夫している。		